

展覧会開催とオープンセレモニーのご案内

アフアンの森づくり40周年記念展

ニコルと一緒に森への道を歩きませんか？

～C.W.ニコルとアフアンの森・40年の実践から未来へ～



2026年の今年、長野県信濃町にあるアフアンの森は「森づくり40周年」を迎えます。この節目の年に、黒姫童話館で「ニコルと一緒に森への道を歩きませんか？～C.W.ニコルとアフアンの森・40年の実践から未来へ～」と題した展覧会を開くことになりました。荒れた森が息を吹き返し、生きものたちが戻り、人と森が再びつながっていった軌跡。その物語を、C.W.ニコルの想いと共にたどる特別な展覧会です。

「アフアン」とは、ニコルの生まれ故郷・英国のウェールズ語で「風のおおるところ」という意味です。静かな森の中で耳を澄ますと、さまざまな生きものの息遣いが聞こえてきます。

ニコルが再生させた森に息づく多数の命の中に溶け込むと、私たち人間はその一部であることを感じさせられます。

どうぞ、森が育ててきた“40年の軌跡”と、“100年先に遺す希望”に会いに来てください。

展覧会概要

開催期間： 2026年4月18日(土)～11月29日(日)
開催時間： 9:00～17:00
会場： 黒姫童話館・童話の森ギャラリー
〒389-1303 長野県上水内郡信濃町野尻 3807-30 TEL 026-255-2250
入館料金： 黒姫童話館と童話の森ギャラリー共通券 一般 1,000円・小中学生 500円
主催： 黒姫童話館
共催： 一般財団法人C.W.ニコル・アフアの森財団

展覧会オープンセレモニーのご案内

日時 2026年4月18日(土)
10:00 展覧会オープンセレモニー
○ 9:45 受付を開始いたします。
○ セレモニー後に取材をお受けいたします。
場所 黒姫童話館・童話の森ギャラリー
〒389-1303 長野県上水内郡信濃町野尻 3807-30 TEL 026-255-2250
出席者 信濃町長 鈴木文雄
黒姫童話館館長 依田秀人
一般財団法人C.W.ニコル・アフアの森財団 理事長 森田いづみ



お問い合わせ

(一財)C.W.ニコル・アフアの森財団
TEL 026-254-8081 E-mail: info@afan.or.jp

【資料】



展覧会内容

第一部 C.W. ニコルの言葉と写真でつづる森づくりへの道

幼少期から自然に深い関心を寄せ、世界各地で自然と向き合ってきた C.W. ニコル。日本で森林再生に取り組むまでの道のりを、言葉と写真で紹介します。

また、会場内にテントを立て、中でアファンの森の四季の音などを体験できるようにします。テントにはニコルを偲ぶ数々のアウトドアグッズなどを置き、まるで少し前までニコルがそこにいたような設えとなっています。

第二部 アファンの森づくりと生きものたちの 40 年

放置された里山を買い取り、手入れを続けてきた 40 年。再生した森に戻ってきた生きものたち、財団の活動、森が持つ多様な機能を紹介します。

第三部 森から未来をかえる

ニコルの森づくりへの思いは「人」から「企業」「町」にも広がりがつつあります。ニコルが思い描いた 100 年先の森をどう守っていけるのか、来訪者のみなさまにも、その「種」を持ち帰っていただきたいと思えます。

アファンの森とは――

故 C.W. ニコルは、1986 年より日本の森の荒廃を憂い、放置された里山を自ら買い取り、生命力豊かな本来の日本の森を甦らせることを目的に森づくりを始めました。

日本の森林の約 31% にあたる「里山」と呼ばれる二次林は、そのほとんどが放置され、ツル植物などで上層部が覆われ、下層には単純な陰性の低木類が繁茂した状態となってしまいました。そのため、明るい里山環境に依存していた動植物の多くの種が生息生育できず絶滅に追い込まれています。

当財団は、長野県信濃町の放置された森を少しずつ買い取り、生きものとの対話をしながら、森の再生活動を続けています。手入れを始めて 40 年目のアファンの森 北エリアは、17.86ha となり、絶滅が危惧されている動植物がこれまでに 65 種確認されています。

また、間伐材は薪や炭、きのこ栽培の椀木などに活用し、季節毎の山菜、キノコの採取など、かつての里山としての機能を甦らせています。また子どもたちの環境学習の場や癒しの提供など、森林の新たな可能性を探っています。

アファンの森とは――（簡略版）

故 C.W. ニコルは 1986 年、日本の里山の荒廃を憂い、自ら土地を買い取り森づくりを開始しました。放置された二次林を再生し、明るい里山環境を取り戻すことで、多くの動植物が再び生息できる森へと甦らせてきました。

現在、アファンの森 北エリアは 17.86ha。絶滅が危惧される 65 種の動植物が確認され、間伐材の活用、山菜・キノコなど里山の恵み、環境学習や癒しの場としての活用など、多様な価値を生み出しています。